

令和4年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校定時制の課程） W05

目指す学校像	・生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	------------------------------------

重点目標	1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自律性、社会性の伸長 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実 3 保護者や中学校との連携強化と学校情報の積極的な提供 4 教職員の働き方改革に向けた学校全体での業務の見直しや効率化の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標			年度評価(2月1日現在)				
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 小・中学校時代に不登校等を経験し、人間関係づくりが必要な集団活動をする学校生活に慣れていない生徒が各学年に複数在籍している。 【課題】 多様な困難を抱えた生徒が安心できる居場所となるよう、きめ細やかな教育活動を展開する必要がある。 生徒の自主性・自律性・社会性を育むため、生徒と職員の信頼関係を深めるとともに、教科指導のみならず、学校行事・部活動等の特別活動の充実が必要である。	生徒と職員の信頼関係を深め、生徒が安心できる居場所づくりを推進する	①教員間で生徒情報の共有化を図り、必要に応じて外部人材や関係機関と連携する。 ②コロナ禍に対応した内容を精査し、感染予防対策を講じたうえで学校行事、部活動を実施する。 ③「報告・連絡・相談」を徹底し、無断欠席、無断遅刻を減らす。	①外部人材や関係機関と適切に連携できたか。 ②コロナ禍において行事、部活動を実施できたか。 ③無断欠席者等を減少できたか。	①SC、特支コーディネーター、入間市障害支援課、スクールロイヤー及び就職支援アドバイザーを活用して指導の充実を図った。 ②3年ぶりに「球技大会」、「遠足」、「修学旅行」を実施した。また、「学芸祭」においては、3年ぶりに保護者を招いて実施した。 ③新たに GoogleClassroom での報告欄を設けたところ、無断欠席者等を減少できた。	A	①本年度構築した他機関との連携を更に強め、生徒にとってより良い学びの環境作りに努める。 ②再開した行事について、継続して実施できるよう内容を照査して計画する。 ③電話連絡とモバイルツールを使った連絡を上手に併用することで、無断欠席者等の更なる減少に努める。
2	【現状】 大多数の生徒が小中学校の段階で学習面においてつまづいた経験をもっており、学習意欲の低い生徒が多い。 【課題】 「わかる・できる」という成功体験を増やして欠点保有者の減少に努める一方、学習意欲の高い生徒を意識した授業を展開する必要がある。 生徒の進路実現のためにも、県教委の諸事業や外部人材を活用した粘り強い指導が必要である。	生徒の学習意欲を向上させ、自己肯定感を高める取組を推進する	①UDの視点を踏まえ、観点別評価の有効利用とICTを活用することで学習指導を充実させる。 ②習熟度別指導を行うとともに、学習サポーターを活用することで基礎学力の定着を図る。 ③就職支援アドバイザーと連携し、適切な情報開示を行うことで生徒の進路希望を実現する。	①欠点保有者が減少したか。 ②習熟度別指導を行う上で、学習サポーターを適切に活用できたか。 ③生徒の進路実現ができたか。	①互見授業週間を2週間設け、ICTの活用方法を共有するなど授業力向上に努めた。2学期の欠点保有率は昨年度比11%減(人数比R3:19/49、R4:12/43)となった。 ②学習到達度の差が大きい1・2学年の授業に学習サポーターを配置し、理解度の低い生徒の学力底上げに努めた。 ③就職支援アドバイザーを活用することで、就職内定率・進学合格率とも100%を達成した。	A	①互見授業は継続しつつ、県教委実施の授業力向上もしくはICT活用研修会に積極的に参加する。 ②生徒が主体的に授業に取り組めるよう、学習サポーターの更なる充実を図る。 ③次年度も就職支援アドバイザーを活用し、進路実現率100%の継続を目指す。
3	【現状】 定時制の特性について理解してもらうべく、学校説明会や中学校訪問の実施、学校ホームページの更新に取り組んでいる。 また、コロナ禍以前はPTAによる下校指導に取り組んでいた。 【課題】 定時制の特性についての理解を中学生や同関係者、地域に十分浸透させるまでには至っておらず、一層連携を深める必要がある。コロナ禍のため、保護者への学校行事への参加が困難な状況である。	学校情報を積極的に提供し、保護者や中学校との連携を深める	①学校ホームページを積極的に更新し、定時制の学校情報を発信する。 ②コロナ禍に対応した学校説明会や中学校への情報提供を実施する。 ③保護者と連携した指導を行うため、PTA下校指導を実施する。	①ホームページを50回以上更新したか。 ②効果的な学校説明会を実施するとともに、中学校への情報提供ができたか。 ③保護者と協力した下校指導を2回実施できたか。	①教務部と特別活動部が中心となり、2月1日現在までに46回の更新を行った。 ②全教職員で分担して市内及び隣接市町村6校の中学校訪問を実施し、17校に学校案内等を郵送した。また、学校説明会の他に4回の個別見学会を行った。 ③保護者と協力して下校指導を2回実施した。また、学芸祭において、保護者を招いて実施した。	B	①先生方に普段の学校の様子と実施したすべての行事をホームページに掲載してもらった。次年度も今年度以上に情報発信していく。 ②継続して市内中学校及び隣接市町村の中学校を訪問して情報交換をしていく。 ③保護者との連携を強めるため、行事参加の継続とPTA活動の充実を図る。
4	【現状】 教職員の働き方改革に向けて、外部人材を活用することで業務内容の効率化を図っている。 【課題】 社会の多様化に伴う教員の負担増大を改善していく必要がある。また、業務の平準化を図る必要がある。	県教委の諸事業や外部人材を活用し、負担軽減を行う	①企画委員会の活性化を図り、各業務間の調整や引継ぎの効率化を行う。 ②コロナ禍に対応するため、必要に応じて各分掌等で業務内容・分担の見直しを行う。 ③外部講師等を活用しつつ、組織的な教育活動を進める。	①企画委員会できれい調整が取れたか。 ②コロナ禍に対応した業務の見直しができたか。 ③外部講師等を活用するとともに、組織的な教育活動ができたか。	①分掌や学年を跨ぐ行事やコロナ禍で2年間未実施だった行事計画と、働き方改革の一環として入試業務期間の勤務時間を変更した。 ②主に教務・特活・保健で業務の見直しを行った。 ③就職支援アドバイザーにキャリア教育に関する講演・講義を依頼した他、スクールロイヤーに保護者対応における助言をもらうことで教育活動の充実を図った。	B	①②各分掌等の総括で今年度の良否をまとめ、各分掌同士での業務の移管や必要に応じて分掌横断の協働を取入れることで、次年度は更なる業務時間短縮を目指す。 ③他にも活用できる外部人材があれば活用を試み、業務負担減と教育活動の充実を図る。

学校関係者評価	
実施日令和5年2月2日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
様々な課題のある生徒に対し、適切な指導をすることで成果が上がってきている。そのような生徒さんは高校で学び直しをしたいと強く思っていることが多いであろうことから、今後も継続的な指導をお願いしたい。 無断欠席者等の減少の取組みにより、その成果は出ていると思われる。引き続き策を講じて減少に努めてほしい。	
互見授業を行うことによる個々の力量向上と組織の充実ぶりを感じる。 学習サポートの実施は、必ずや成果に結びつくと思う。継続を期待する。 就職内定率、進学合格率100%は、生徒の努力と先生方のサポートにおいて称賛に値する。	
感染対策を実施しての行事運営は、次年度も継続してほしい。 ホームページ更新の努力が見受けられる。中学生も保護者も定時制高校がどういうものか理解していない方もおおいので、ホームページで「1日の学校生活の流れ」を掲載すると良いと思う。また、生徒から欲しい情報・内容を聞いてみてもよいのではないかと。 保護者等との連携が見える。	
外部人材、講師等の導入により、幅広い対応が可能になり、組織の充実と業務の見直し等を図っていることが見てとれる。他校の例などを取り入れて、少人数の組織をより有効に活用できるよう期待する。	